



ひなた教師塾通信 No.5



第5回ひなた教師塾は スーパーティーチャーの実践発表に 感動・感激の半日でした!!

第5回 12月27日(日)
9時30分～12時

◎研修内容
実践発表 「学級経営の基本を学ぼう
～スーパーティーチャーの実践から～」

◎参加者数
臨時的任用講師等19名、大学4年生12名、
大学3年生36名、計67名

第5回は、宮崎市立本郷小学校 中西英指導教諭、宮崎市立赤江東中学校 遠目塚由美指導教諭、高鍋高等学校 三浦章子指導教諭、みなみのかぜ支援学校 田爪昭宣指導教諭を招いて、「学級経営」に関する実践発表を行っていただきました。4名の先生方はスーパーティーチャーとして、校内の児童生徒に対する指導はもとより、本県の教職員に対して、授業公開や研修会等を積極的に行っていただくなど、優れた指導力を有する方々です。年末の慌ただししい時期に、実践発表をしてくださり、心から感謝申し上げます。



＜中西英指導教諭＞



＜遠目塚由美指導教諭＞



＜三浦章子指導教諭＞



＜田爪昭宣指導教諭＞

中西先生は、小学生はほとんどの時間を学級で過ごすことから、「子供たちは学校に行くのではなく学級に行くのである」とお話しされ、居心地の良い学級づくりの重要性について語っていただきました。また、以前に保護者からいただいた手紙を紹介され、「辛いこともありますが感謝される仕事でもあります」とお話しされました。

遠目塚先生は、「30年にわたる学級担任経験で気付いた15の大切なこと」について、お話をしてくださいました。中でも、「子供たちの20年後を考えているか」について、人生の本当の認識は30才になってからであると思うので、その時に自分らしく頑張っていてほしいという願いで、学級経営に当たっていると云われました。

三浦先生は、「日々の生徒理解」に一人で頑張らず、教科担任や部活動顧問と連携して努めていることをお話されました。そして、生徒たちは、年々変わるので「理想のクラス像」を押しつけることなく、「目指すクラス像」を共有すること、「少しの無理で成長してほしい」という願いをもっていることを強調されました。

田爪先生は、特別支援学校(知的障がい)の学級づくりについてのお話だけでなく、近年支援を要する児童生徒が増加してきている状況下において、すべての学級でも大変参考になるお話もしてくださいました。中でも、児童生徒に合った「教え方」の引き出しを多くもつこと、ホンモノ感のある活動を通して学ばせること、学級経営・授業づくりを楽しんでほしいと語ってくださいました。



受講者の皆さんが、4名のスーパーティーチャーの実践発表に引き込まれるように話を聞いている姿が印象的でした。また、短い時間ではありましたが、質疑応答も行いました。

受講者の感想より

○ 大学3年生からの感想

時代とともに変わっていく教育現場で、その時その時で求められることや、子供のニーズをしっかりと理解して学級経営に努めていくべきだと実感しました。

○ 臨時的任用講師からの感想

今日の実践発表を聞き、この年齢になっても、この出会いを通して、成長させられている自分を感じました(お話の途中で涙が出てしまいました)。今、関わっている子供たちに恥ずかしくないように、子供たちを信じて真剣に向き合っていきます。

○ 臨時的任用講師からの感想

スーパーティーチャーの方々、これまでどんな経験(失敗があって今があるという部分は特に)をしてこられたか、興味深く聞かせていただき、とても貴重な時間でした。この時間を宝物にできるよう、奮闘したいと思います。

○ 臨時的任用講師からの感想

今後に生かすことのできる内容だけでした。責任感の重さや大変さから、今の自分の段階では、学級担任は難しいと思っていました。しかし、この研修を受けて、「担任がしたい」と思うようになりました。



この日は、MRTの「みらい・みやざき まなび隊」の取材が入りました。インタビューに答えてくださった2名の方、ありがとうございました。なお、この日の内容は、1月23日(土)11時15分から放送予定です。ぜひご覧ください。

次回は、2月13日(土)に、「子供の現状や学校の安全について学ぼう～生徒指導・学校安全の基本～」について、宮崎県教育庁人権同和教育課 生徒指導・安全担当による講義・演習を予定しています。すでに申込みを開始していますので受講希望者は、どうぞお忘れなく!!

文責 宮崎県教育研修センター
学習研修課 課題別研修担当